2022年度　学校評価結果(自己評価)

東海大学付属甲府高等学校

5～1は教員評価（5よい　4おおむねよい　3どちらともいえない　2やや不十分　1不十分）

分野	重点目標	成果と課題	評価	改善策
学校運営		本校は「伸ばせ人間力」をスローガンに掲げ、学校改革を推進し、2年目を終了した。3つの特色あるコース制教育をスタートさせ、幅広い学力層のニーズに応える学習環境の構築を図りながら、更なる学力向上を目指し歩み続けている。学習環境の変化は、生徒のみならず教師の授業力向上へと良い影響を及ぼし、授業改革へと反映し始めたことから、学習に対する意欲を高める結果を生じさせた。活発な学習活動が展開される中で、部活動との両立に困難を感じる生徒がいる状況にもある。	3.9	部活動が積極的に行われている本校において、文武両道の実現は、生徒たちにとって大きな目標である。学習と部活動の両立を図るための対策を、具体的に検討することが急務である。授業での学習内容の理解度を高めるための教員研修の実施や各教科による研究授業の活発化に取り組むなど、様々な点から学習活動を見直し、学習活動の質的な改善を図る必要が考えられる。
教育目標の推進	東海大学の建学の精神を具現化した「柔軟な思考力・協調する力・こころみ力・あきらめない力」の4つの力を育成し、豊かな未来を切り拓く人生の基礎作りをする。	生徒一人ひとりの確かな学力と基礎学力の定着を図るための学習環境を提示することの活動計画が確立されつつある。3つのコース制の導入は、各学力層に応じた学習活動を積極的かつ丁寧に展開することができた。そのことから、今まで以上にきめ細やかな指導を実践させながら、適切に学習状況を把握し、成績向上に取り組む雰囲気が確立された。	4.0	全教職員が力を結集して、生徒一人ひとりを大切する指導を実践しなければならない。生徒・保護者と教職員が互いに信頼し合い、高め合う友好的な関係を構築する必要がある。また、保護者や地域との連携を強化することで信頼され、受験生に選ばれる学校を目指すための対策を検討する。
学習指導	自ら学ぶ姿勢を身に付け、基礎学力の定着と向上を図る。	毎週英語と古文のチェックテストを配信し、基礎学力の定着を図った。提出率も非常に高く取り組めた。しかし、日々の学習調査から家庭での学習時間が短く、与えられた学習だけでなく、積極的に学習に取り組む態度が課題である。	3.6	長期休みの宿題だけでなく、毎日の家庭学習を習慣付ける取り組みが必要である。 ICT機器を効果的に使い、学習でインプットしたものを、上手くアウトプットできるようになることで、基礎学力の定着と達成感から積極的に学習に取り組む態度を育む。
生活指導	「挨拶・身だしなみ」を基本方針とし、これを実行し落ち着きある学校にして、生徒指導案件の減少（15件、20人以下）を目標とする	全体平均4.1という事で平均値は評価を得たが、まだまだ満足できるものではない。 特に教員内で「校則やきまりをきちんと守らせている」という項目では3.1という最も低い数字だった。生徒（4.4）は厳しいと感じていて、教員自身はまだまだできていないという事は、逆にもっと改善できるという事である。できていないと感じている理由にはいろいろあると思うが、教員全員で指導できれば教員の一体感が出て、数字が上がってくれるのではと思う。 もう一つ、生徒の「教職員は、生徒の実態を把握し、適切に指導していると思いますか。」という項目で、3.8と低かった。これは、教員によって差があるからだと思われる。	4.1	両方の項目も同様に、教員が一体となって全員で指導できれば、生徒も教員の評価も上がると考える。教員によって指導のバラつきがあると適切に指導もできず、頑張っている教員もやる気をなくし、良い指導ではなくなる。今の現状がまさしくそうなので、全員が一体となって指導し、全体の平均を4.5にしたい。
特別活動（委員会など）	コロナの規制緩和に伴い、コロナ以前の活動をもとに新たな活動を模索し、実行していく。	コロナによる規制が緩和され、昨年よりも多くの取り組みをすることができた。しかし、コロナ時と同様の活動のみ、新たな活動をしないなどのマンネリ化も多くみられた。例えば、広報委員で行う活動は臥龍のみ、クラス新聞などの作成をするなど他の活動はなかった。	3.5	教員一人ひとりが委員会に対して、熱意をもって取り組むことが必要である。部活動があるため放課後の活動を行うことができないことも理解できるが、模索することを放棄している。活動の具体例を提案では意味がないためこちらで強制させるしかない。
特別活動（部活動）	部活動によって、より充実した高校生活を送り、全国大会に出場できる部活を増やす。また、顧問は練習方法を工夫し、中身の濃い活動を目指す。	「教員は、部活動の指導に熱意を持って当たっていると思いますか。」の項目で、非常に高い数字となっており、教職員の熱量が生徒に伝わっている結果だと思う。 ただ、「放課後の活動に積極的に取り組んでいますか。」の項目は、全員が部活動に入っているわけではないので、少し低くなってしまった。	4.2	熱意は生徒に伝わっているので、来年度も継続して欲しい。部活動に入っていない生徒には低い数字になってしまうと思うので、2、3年生からの入部を勧めたり、部活動に入っていない生徒を対象に放課後ボランティアなどを行なえば、数字は上がると考える。
進路指導	・生徒一人ひとりの適正や希望を把握し、進路希望を実現させる。 ・東海大学の学部・学科や教育・研究内容を十分に理解した上で、適切な付属推薦指導を行う。 ・他大学や専門学校、就職などについて勉強し、生徒の希望を実現させる進路指導を行う。	・1年生の10月と2年生の5月に進路適性診断を実施し、結果を基に進路学習会を実施した。自分に適した職業や学問から、東海大学の学部学科を調べたり、進路決定に向けての参考資料として活用した。 ・東海大学の改組改編も落ち着いたので、教員の学部学科理解を深めていく。また、2025年度付属推薦より制度が大きく変わるため、進路指導も十分に注意していく。 ・生徒自身が進路目標を明確に定めることができるように、懇談の機会を有効に活用し進路希望調査を実施できた。	3.8	・今年度は、予定していた教員研修が別の項目になってしまったため実施できなかった。来年度は、進路指導の在り方（特に付属推薦）について全員の先生方が間違えなく理解できるように情報提供を適宜実施していく。 ・保護者を対象とした進路指導に関する情報提供の機会が持てなかったため、来年度は、東海大学の説明会も含めて実施を計画していく。
地域連携（校友会活動）	保護者や関係者との協力関係を推進する	コロナ禍で東海大学、山梨県とも校友会活動が大幅に縮小している。外郭団体の総会もほとんどが役員のみの総会であり、懇親会や研修会は皆無の状況であった。 なお、学校の活動の様子については、ホームページを通して広報した。	4.1	コロナ対応の状況をみながら徐々に校友会活動を推進し連携を更に一層強化するとともに、学校施設の周辺地域との信頼関係を構築し、学校・校友会・地域社会が一体となり学校運営ができるよう努める。 なお、ホームページでの情報発信を改善し、教育活動のPRに努める。